08－09国際親善奨学生（マルチイヤー：2年）フランス

2010年10月13日　長谷川　敬（苫小牧RC）

大変ご無沙汰しております。

2008年－2009年国際親善奨学生として苫小牧クラブより2年間フランスのリヨンに派遣されておりました　長谷川です。

皆様には変わらぬご支援、そしてお頼りを頂きまして心より御礼申し上げます。

それにもかかわらずこちらからの近況報告を長期にわたり怠っておりましたことを深くお詫び申し上げます。本当に申し訳ありませんでした。

次に、以前よりお伝えしようと思いつつ怠っておりました近況について触れさせて頂きます。

マルチ・イヤーの奨学金を頂き、リヨン第2大学のMaster2という課程（日本の修士課程にほぼ相当）にて2年間ローマ史の研究をして参りましたが、お蔭様をもちましてこの5月に論文を提出し、無事に学位を取得することが出来ました。

『ロータリークラブでのスピーチ』

それを受けまして、かねてより希望しておりましたフランスの博士課程への進学に向けて具体的な準備を行うこととなりました。

残念ながら、リヨン第2大学のこれまでの指導教授の方は今夏で退職されてしまうために引き続き博士課程の指導を受けることは叶わず、そのため6月、7月の2ヶ月間は新たな指導教授探しとその方との交渉（ちょっと大袈裟ですが）に明け暮れておりました。

この交渉のやりとりを当初はメールを通じて試みていたのですが、最有力候補のボルドー大学の先生からは返事がもらえなかったために一旦は本気で断念することを考えました。

しかし、駄目もとで指導受入ではなく単なる面談の申し込みをメールで行ったところ即座に了承のお返事を頂き、早速お会いしてすぐに博士課程の指導受入の許可を頂くことが出来ました。

余談になりますが、これまでの体験から、フランスでは意思疎通の手段としてメールよりも対面もしくは電話での会話を重視する傾向がかなり強いような印象を受けます。

その一方で書類主義が幅を利かせていることも事実ですが、何をするにしても「話してなんぼ」というところは否めません。

リヨンの受入クラブであったClub Vieux Lyonとの交流は、論文提出前の数ヶ月間は残念ながら疎遠になってしまったのですが、ボルドー行きが決まってからも世話役のドミニク・ユベールさんから引越の具体的なアドバイスを頂くなど支援を頂戴致しました。

そして、先日10月4日にはあらためてリヨンに赴きまして、2年間の奨学生生活を締めくくる卓話をさせて頂きました。

ボルドーには今後少なくとも3年間は滞在することになりますが、その前に節目と致すべく11月上旬に一時帰国致しまして、苫小牧クラブにて卓話をさせて頂くことになっております。

その苫小牧クラブでの世話役である櫻田様には、この2年間クラブの近況報告と激励のお便りを頻繁に頂きました。

日仏両国において素晴らしい世話役の方に巡り合えたことは、今回の、そしてこれからも続く留学生活の中で非常に大きなことだったと思います。

お二人に感謝するとともに、この機会を与えてくれた財団そしてそれぞれのクラブにこの場を借りて厚く御礼を申し上げたいと思います。

『Boursiers du Rotaryclub』

『フランス国内旅行での一齣』

奨学生としての立場を去ることにはなりますが、ドミニクさんからボルドーのクラブを紹介して頂けることになっており、今後も機会を積極的に捉えてロータリアンとの交流を進めて参りたいと思います。

最後になりましたが、あらためまして2510地区の奨学金委員会、学友会、3年以上の長きに亘り多大なるご支援、ご助言を頂戴致しましたことをこの場を借りて心より御礼申し上げます。

長文になりまして申し訳ありません。それでは失礼致します。　　長谷川　敬